

○議長 小田 武人君

7 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

7 番、田島憲道です。傍聴席用に資料を 10 部以上用意してたんですけど、すっかりなくなっていると聞いてたからですね。資料泥棒ですね。

はい、建設的な、きのうからですね。議論が交し合って、大変いい一般質問が進んでいると思います。新人さんの職員さんはいないですね。最近の 10 代の活躍、例えばあの卓球ですね、先週あった。これはもう本当、世界が驚きました。テレビにくぎづけになってました。それときのうですね、将棋では藤井 4 段ですね、中学生の。彼は 3 戦、きのう 1 日だけで 3 連続勝ちまして、現在 2 3 連勝中ということなんですが。しかしですね、AI との対戦では将棋の名人、えーと、名前忘れちゃった。名人の称号をもっているあの方、あの、「P o n a n z a」というゲームソフトに完敗いたしました。またですね、囲碁でもですね、より複雑な囲碁では、AI、「アルファ碁」というのが中国の世界王者 3 連戦に完勝して開発者の G o o g l e はもう、人間との戦いを終わらせるぞということで、事実上の引退宣言をいたしました。まあ、これはコンピュータが人間を超えてしまったということなんですが。まあ、あの G o o g l e は説明しましたね。これからはエネルギーの世界や医療の分野で活躍させていくという。これはなんとも悲しいお話なんですが。

2040 年になったら、今の半分の職業がなくなってしまうという IBM の研究があります。その中には、税理士や会計士そして運転士なども含まれているそうです。また、行政の答弁も AI が返してしまうぞと言われておりまして、まあ、ここに既に起こった未来、現実がここにあるわけです。そのようなことを踏まえながら、質問をさせていただきます。

通告 1 の芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取り組み状況と成果についてお聞きします。昨年こういう立派なものができ上がりまして。これ全部一つ一つやっていったら、あのもう大変な、きょうのこの 1 時間じゃ時間が足りないので、きょうはですね、去年、加速化交付金 4,400 万の事業についてお聞きしたいと思います。では通告を読み上げます。

政府は、平成 26 年 9 月にまち・ひと・しごと創生本部を設置し、11 月にはまち・ひと・しごと創生法を成立。そして、全国の自治体に対し、平成 27 年度中に地方版総合戦略の策定を求めました。その対象期間は平成 27 年度から 31 年度までの 5 年間であり、現在、我が町の総合戦略も 3 年目を迎えることに至っております。

資料 2、皆さんお配りしております資料 2 がですね、こちらを見ていただきたいんですが。では質問 1 です。地方創生加速化交付金による事業の取り組みと成果について、2 と 3 を除くとあります。質問です。よろしくお願ひします。

○議長 小田 武人君

執行部の答弁を求めます。企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

芦屋町における加速化交付金の事業名は、まちづくりプラットフォーム化モデル事業で、事業概要は、観光まちづくり推進プロジェクトを中心に、観光基本構想で掲げているリーディングプロジェクトの事業推進や、地方創生総合戦略に掲げる各種事業の展開をモデル事業として実施。事業展開は、地方創生総合戦略に掲げる事業を組み合わせたもので、観光まちづくり推進プロジェクトの部会事業と位置づけ、それぞれの実施主体で推進するものでございます。

具体的には、田島議員の資料の 2 にありますように、観光まちづくり推進プロジェクトの再構築と、部会事業としてマーケティング調査、情報発信プロジェクト、着地型観光プロジェクト、芦屋釜の里活性化プロジェクト、グルメ開発・特産品開発プロジェクト、農商工等連携事業、移住・定住促進プロジェクト、起業支援プロジェクト、人材育成支援プログラムの 9 事業を実施し、交付額は 4, 400 万の申請に対して 4, 340 万 3, 316 円ということになっております。

企画政策課では、情報発信プロジェクトといたしまして、ウェブコンテンツの制作やプロモーションなどの事業を実施。また、移住・定住促進プロジェクトといたしまして、移住・定住施策については、専門的なノウハウが必要であるため、施策推進の調査研究及びガイドブックを制作。成果といたしましては、地域コミュニティの環境整備が必要であることなど、現状を踏まえた新たな移住・定住施策の提言、年次的なステップアッププログラムの提案を受けておるところでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

それでは、地方創生加速化交付金事業、9 事業ございますけれども、地域づくり課所管となる 7 つございますけれど、要旨の中に（2）芦屋釜の魅力をいかしたというところがございまして、それを除いた 6 つの事業の取り組みと成果について御答弁いたします。

まずは、観光まちづくり推進プロジェクト再構築ですけれども、既存の観光推進プロジェクトがございまして、これは芦屋町観光基本構想を実現するための基盤となる組織に再構築するために、組織の振り返りと将来の方向性と運営方法等を検討し、組織のあり方並びに方向性について報告を受けております。

次に、マーケティング調査です。今まで観光に関するマーケティング調査を実施したことがありませんでした。このため今回、観光施策における効果的な戦略策定や事業実施のために、イベ

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ント及び施設での定点調査及びGPSによる動態調査を実施し、調査結果により、芦屋町への来訪者の行動パターンが見え、今後の観光施策への活用が期待されております。

次に、着地型観光プロジェクトは、体験プログラムの創出及び開発に関する事業を実施し、実施した体験プログラム参加者へのアンケート結果等により、新しい商品に関する事例等の報告及び予約管理システムを導入しております。

次に、グルメ開発・特産品開発プロジェクトは、商工会が行う特産品開発事業への支援を実施しております。

次に、起業支援プロジェクトでは、店舗誘致のためのチャレンジショップ事業を実施し、本年4月に海浜公園内に「HASAMIYA」を開店しております。

最後に、人材育成支援プログラムでは、観光まちづくり推進プロジェクトの委員さんらを対象に、人材育成のための研修会を実施いたしました。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7番 田島 憲道君

ありがとうございます。昨年の、その地方創生加速化交付金4,400万の内訳でしたが、これが、芦屋町よくいただいたなど。今になっていろいろ思っております。これが、名前がついております。まちづくり推進プラットフォーム協議会ということで説明を受けましたが、このプラットフォーム協議会というのは、これはバーチャルで存在しているのか、それとも実際に協議会として集まって、会合を開いたぞとか、そのようなことがあっているのか、お聞きします。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

観光まちづくり推進プロジェクトの再構築ということで、このプロジェクトは現在ございます。過去には、アッシー、ゆるキャラのアッシーの選考であったり、そういったことにもこのプロジェクトのメンバーの中で選考をいただいたりしております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7番 田島 憲道君

ちょっと余り動きが見えてないんですが。協議会というのは、設立してそこに皆さん集まってお話の場を取ったということですか。

○議長 小田 武人君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 入江 真二君

この観光基本構想の中では、この観光基本構想で決めた内容を進めるための推進プロジェクトという位置づけで運営しております。ですから、そういった協議の必要なときに委員の皆さんに集まっていただいて、協議をいただく、議論をいただくというようなことになっております。

以上でございます。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

ここに全体のイメージ図というのがあるんですよ。漁業者、農業者から、自衛隊芦屋基地、金融機関、この中にですね、議会が入っていないんですよ。ちょっと寂しいなと思っています。これが、まち・ひと・しごとができたときもですね、でき上がった時点で全協で説明がありました。議会から代表が 2 人出ておりますが、なかなかいろいろなこと思っていたんですけど、この策定には、全然、私どもは加われなかったことをちょっと残念に思っています。これ一つ一つこのモデル事業をですね、挙げていって大変なんです。

例えばサワラなんですよ。ことしもやられるということですけど。僕はもう去年のサワラのことをちょっと嫌ごとを言っておりますけど、これ、天然物だからですね、とれる時ととれない時もあります。そして、またサゴシなんて小さいものを片っ端からとっていったら、今度はもう大きいものの成長を妨げるというか、資源の枯渇につながるんじゃないかなとも心配しております。これがですね、養殖にできるんだったら、話は別なんです。

それと、海の近くでお店を出されている方がいらっしゃいます。あの方が 2 年後に今度はどこでお店を出すのかなとかいうことを考えたら、この町内にそういったところがあるのかな。担当者の方も実際、自分が今、役場の仕事をやめて、もしあそこでお店を出すなら、何を出すのか、出したらいいのかとか、そういったことを、やっぱりそういう目線も大事じゃないかなと思うんですよ。そういったサテライトオフィスなんかもですね、徳島県の神山町とかで成功しているところなんかは、古民家を改装してあげて、インターネットやら何やらの設備を整えてあげて、さあ来てくださいというようなことをやっています。それが、芦屋町では、もしそれをサテライトオフィスやら何やら誘致するときに、そのような適切な店舗があるのかなとかいうところも、そういったことも思う次第であります。

資料の 3 をちょっと見ていただけますか。地方創生関係交付金のイメージですね。26 年の補正からここ数年で 5, 0 0 0 億を超えております。芦屋町が約 4, 4 0 0 万いただいたというの

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

は、下から 2 番目のですね、地方創生加速化交付金 1, 0 0 0 億の中からはなんですよ。去年、2 8 年当初、2 8 年の補正と地方創生推進交付金 1, 0 0 0 億円ですか。その次の地方創生拠点整備交付金 9 0 0 億と。今年度当初ですね、地方創生推進交付金また 1, 0 0 0 億というのが、政府が、国が、こういうものを出しております。芦屋町は去年と今年度とこの点に関しては、いかがでしょうか。質問です。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

この資料に基づきまして、2 6 年度の補正で地方創生先行型交付金というのがあります。これは全額交付金ということで、芦屋町も活用しております。2 7 年度の補正で、地方創生加速化交付金という、これは全額交付金であります。これは先ほど説明を行いました事業に活用しております。2 8 年度からは、地方創生推進交付金というものになっています。これは、2 分の 1 が交付金というふうになっておりまして、連携中枢都市圏の事業に活用はしておりますが、活用できる条件が狭まっている。このため、このほかの事業で活用できるように調査研究しているところでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

いろいろありがとうございます。資料の 4 見ていただきますか。いろいろ調べてたらですね、やっぱり遠賀町、なかなか頑張っているじゃないかというところなんですよ。まずはですね、どこでもいただいたという 7 0 0 万とかがありますが、それをちょっと除いてですね。地方創生総合戦略を 1 0 月までに策定したら 1, 0 0 0 万あげるよというのが、一番最初なんですよ。それを遠賀町はいただいていますね。遠賀町、遠賀町ですね。芦屋町の 4, 4 0 0 万と同じものを遠賀町は 8, 0 0 0 万円、満額なんですよ。これは、聞くところによると 3, 5 0 0 万から 8, 0 0 0 万円。全国 1, 7 0 0 の自治体に配ったと。一番もらえるところが 8, 0 0 0 万だったというんですよね。遠賀町は早速これ、駅の横の「おんしん」の店舗で、日本一企業をインキュベートするという金融機関の跡地の活用事業というのを、もう目に見える形でやっております。これはコワーキングスペースと言ってですね、これ、ああ、やられたなあ。これ、芦屋町でいいんじゃないかなとか、自分の店舗でいいんじゃないかなあとか思ってたやつなんですよ。駅前であれば、よっぽど利便性がありますよね。そこの下を見ていくと、ほとんど取っていつてるんですね。今年度の、つい最近の平成 2 9 年 4 月 2 8 日に発表された地方創生推進交付金、1,

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

000 億ですよ。去年に引き続き。これもキラキラワーキングママとアクティブシニアが活躍するということ、起業家育成事業で 1,300 万いただいて、合計 1 億 6,863 万というものが、遠賀町にしているということで、資料の 5 を見てください。遠賀町も早速この、国からいろいろ査定されるからですね、もう、すぐホームページ上で公表をしております。こういうふうなことに使いましたよというのを。そのようなことが遠賀町の身近なところで見えております。

去年 12 月の議会だったですかね、僕は、うきは市の副市長にお会いしたときに、いろいろなお話を聞いて、そこで事例紹介を議会でやりました。その時にここで話したと思うんですけど、うきは市は 5 回も改訂版を、まち・ひと・しごとですね、1 年のうちに 5 回も改訂版を出しているんだと。そしてですね、芦屋町みたいに、こういう印刷物にしていないんですよ。コピー用紙ですよ。改訂版を 5 回も出す、その都度、全協で議員に説明していると。だから、議員は本当、平均年齢 74 歳とか言っていました。よくついていけるなあと思っていたら、議員はもう職員に全般の信頼を置いているんだという話を聞き、すばらしいなと思いました。遠賀町はもう、どうやってこれだけのお金をいただいているのかなと。そんなことを考えながら、多分、改訂版もいろいろこまめに出しているのかなとか。そういうことを考えながら、ちょっと遠賀町に聞く機会があったら誰かに聞いていただけたらと思います。

続いて②のですね、戦略 4、オンリーワンの芦屋釜を活かした魅力づくりの具体的な施策、芦屋釜の里魅力向上プロジェクトについて、取り組み状況と現在までの成果についてお尋ねします。

○議長 小田 武人君

生涯学習課長。

○生涯学習課長 本石 美香君

戦略 4、芦屋釜の里魅力向上プロジェクトでは、芦屋釜の里を観光資源として活用するために、集客の仕組みづくりや回遊の仕組みづくり、滞留時間向上に向けた取り組みや鋳物師と連携した体験プログラムの創出、土産品の開発を推進することとしております。また芦屋釜の認知度向上と鋳物師の地場化を推進するため、復興の取り組みについての情報発信などに取り組むこととしております。

主な取り組みといたしましては、集客の仕組みづくり、回遊の仕組みづくりでは、町内外施設イベント等と連携し、入園料の割引などを実施いたしました。中でも北九州市が実施する「こども文化パスポート事業」に参加した結果、夏休み期間中、多くの家族連れの来園につながりました。また茶道の表千家同門会提携館に認定されたことにより、全国の表千家同門会員に周知され、さらなる茶道関係者の来園につながっております。

鋳物師と連携した体験プログラムの創出では、遠賀・中間広域連携プロジェクト推進会議主催の水辺のくに博覧会や芦屋釜の里講座での鋳物古印づくり体験を実施し、町内外から幅広い年齢

層の方々が参加、好評を博しております。

土産開発におきましては、新たな工房鋳物製品の制作販売を進めており、年間一、二点程度の新作を制作、販売するとともに、独立した鋳物師制作のえと置物の販売も実施しております。双方とも売り上げは好調で、今後は制作個数の増を図るための手法を検討し、土産品の開発等を進めていきます。

復興の取り組みについての情報発信としましては、1つは表千家及び裏千家の茶道関係全国雑誌への掲載を行いました。これをきっかけに茶道関係者のツアー誘致につながり、全国から多くの著名な茶人が来園されております。

また、芦屋釜の里全体の魅力発信につながるものとして、地方創生加速化交付金事業の情報発信プロジェクトにより、芦屋釜の里を紹介したホームページが作成されたことで、施設案内だけではなく、復興への取り組み・鋳物師の紹介等をより詳しく、わかりやすく掲載することができ、さらなる情報発信を進めていくことができるようになりました。

観光資源としての活用は、芦屋釜の里からの情報発信、各種事業の実施だけではなく、地域づくり課や芦屋町観光協会、芦屋町商工会等との連携が不可欠だと考えております。集客や回遊の仕組みづくり、情報共有により相互協力をこれからも進めてまいります。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7 番 田島 憲道君

釜の里の取り組みについて大変よくわかりました。

それですね、家庭から日本文化が消えつつあるという現実があります。例えば、トイレなんかですね、私はもう築 70 年くらいの家に住んでいますが、男子便所がちゃんとあります。そしてまた和式の便所があるんですけど。今、大体、トイレ、皆さんところで男子トイレと和式トイレは残っている家の方っていらっしゃるんですか。町長の家なんかは、男子用のトイレと洋式用と一緒にですか。やっぱり何か変わってきたなあとか思うのは、日本の住宅に男子トイレがなくなって、小使用のですね。それもちょっといろいろなことが、原因があるんじゃないかなあとか、ちょっと話が変わるとこいっていますけど。

それですね、芦屋釜やお茶の文化に小さい時から触れるということは、若者の日本文化の文化離れを食いとめるという作用が働くと思います。きのうからですね、学校で、小学校低学年の方には、必ず鋳物師のところに行くようなプログラムがつくられていると聞いております。大変安心しておりますし、今、京都に大変インバウンドの、海外からのお客さんが訪れております。大変な状況になっておりますが、芦屋町なんかはですね、京都ともう直結するルートがいろいろ

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ありますよね。これをなんとか生かさなければいけないんじゃないかなとずっと私、前回の一般質問で言ってきましたが。

例えば、お土産なんかですね、外人さんはTシャツをものすごくポリシーを持って着るんですよ。中に何が書いてあるのかとか。我々も「アイラブニューヨーク」とかいうようなTシャツを買ったこともありますけど。何か外人さんが「一番」とかいうTシャツ着ていたりとか。ああいちう中ですね、例えば、芦屋釜の重厚な釜の写真があるような黒いTシャツとか、そういうのは、外人受けするんじゃないかなとか。土産物の1つとして考えていただければと思うんです。

それですね、先ほどからちょっとお話してありますけどね、芦屋釜復興事業という希少な文化財をどのように観光資源に結びつけていくというのが、大変な重要なことになってくると考えておりますが、釜の里の施設、これ見せる施設としてですね、今後100年以上も持続可能な建築物なのか、そういった施設なのか。例えば、福岡の楽水園や友泉亭と比べると、あそこは黒田の殿様の別邸だったりとか、そういう格式あるところで、茶の世界でも有名な日本庭園だと思いますが、それに比べて、どうも見劣りするんですよ。この点についていかがでしょうか、お願いします。

○議長 小田 武人君

生涯学習課長。

○生涯学習課長 本石 美香君

芦屋釜の里は木造でございます。芦屋町公共施設等総合管理計画において、耐用年数は15年から24年で耐用年数経過率は現在92%となっております。そこで長寿命化ということを図るために、大茶室や資料室棟など年次計画を立てて、木塗装を実施して、維持管理に努めております。25年度には工房、26年度は図書室及び資料室棟、そして28年度には大茶室の木塗装補修工事を行いまして、今年度は倉庫等、用具、ポンプ室棟を行って行って、維持管理に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7番 田島 憲道君

ありがとうございます。3年前、4年前になるんですかね。マカオ大学から偉い人が、大学院の教授が、トップの方が来ました。うさん臭い中国人なのかなと思ったら、いやいやアメリカの大学、オハイオ州立大学とか、アメリカの大学の大学院を定年して、引き抜かれてマカオの偉い人になってですね、まあ60万の都市なんですけれど。実は、カジノではラスベガスの売り上げの5倍以上と世界一のカジノ国家になってます。大学の教授といってもですね、政府に大変かか

わっていて、マカオの観光ビジョンやら、いろいろつくっている方だったんですよ。その方を案内しました。町長よろしくと。覚えていますか。

砂像が復活したときに、祭りあしやの日だったんですよ。釜の里に 30 分、こういう話もここでしたことあると思いますけど、30 分の予定だったんですけど、あの人たちを見る視点が違うんですよ。1 時間半以上もいるんですよ。鋳物師は東京に出張して 2 人ともいない。学芸員さんもいない。どうしてここまで食らいつくのかなと。

その彼らはですね、この 2 月に日本に来たんですよ。北九州市が呼んでいたんですよ。IR 法案ができて、それでカジノが日本にどう影響を与えるかというのも、その専門家だからですね、そのことで来ていました。彼は僕を見つけて跳んで来てですね、実はマリンテラスに泊まったんですよ、あの方たちは。覚えてくださって嬉しかったんですけど。釜の里を生かさなきゃいけないよと。例えば宮崎とか、佐世保とかに、もしできたとしても、大陸から来るお金持ちの感覚というのは、北九州の飛行機で降りてとか、カジノ、宮崎に行ったりとか、その距離はもう半端ないですよ。日本自体がカリフォルニアにすっぽり入るぐらいの距離感じゃないですか。だから必ず生かしたほうがいいよというアドバイスを受けまして。その彼はすごい依存症、ギャンブル依存症とかの権威でもある方なんですよ。カジノですよ。マカオ市はですね、公務員は一切カジノに行けないということだったんですよ。年に 1 回だけ何とか節のとき、ありますよね、旧正月。あの時だけ行けるとか言って。全てそのギャンブルとか、いろいろなことで、あそこのカジノで吸い上げたお金は全て教育に注ぎ込んでいるのだと。それはやっぱり子供たちにしっかりと教えているということ、話を聞きました。

きのうからも、いろいろ話も出ていますけど、今、就学前のお子さんたち、幼稚園や保育園の方たちですね。そういったところにお金を入れていくのが大変いいことじゃないかなと。それはもう競艇の財源ありきのことなんですよ。

ちょっと資料の 7 を見ていただけますか。これはですね、星野リゾートの内部資料なんですよ。持続可能な地域活性サイクル、このサイクルを回していくということなんです。まず、この左上の独自の文化の維持、これはもう芦屋でいえば、言わずとも知れた、あの芦屋釜です。その下に地域らしい環境の保全。これは洞山から夏井ヶ浜など、芦屋の風光明媚な海岸線だと思います。その右に行くとはですね、適切な産業。これが実は肝であると言われてます。ここは、今、芦屋は競艇なんですよ。ここをですね、働ける仕組みとか稼げる仕組みに変えていくという、そこに僕は釜の里やら港湾の開発がかかってくるんじゃないかなと。その上の必要な人口規模というのはですね、これはもう住みやすい町なら自然にふえてくるということなんですよ。こういったものをですね、星野リゾートは必ず、いろいろなところに行くときには、この資料が一番大事に抱えていくと言われております。

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

それでは、③のプロモーション動画等の情報発信コンテンツについて詳細をお尋ねします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

情報発信プロジェクトでは、ウェブコンテンツで観光情報と芦屋釜の里の専門ページの制作や運営マニュアルの作成、運営者向けの研修を実施。動画制作では、ウェブ用の「町民の町民による町民のためのCM」を制作。あわせて、情報発信用リーフレット「芦屋びと」を制作。シビックプライド醸成のため、町民向け情報発信の仕組みづくりを調査。また、プロモーション活動として、関東圏などで6回のPRイベントに出展。あわせてプロモーションブックなどを作成しています。

特に、ウェブコンテンツでは、情報検索の入り口を整理するとともに、多言語やスマートフォンにも対応した観光情報に特化したサイトを制作しております。これは4月に立ち上げたばかりで、目に見える成果はまだ出せていないものの、29年度はこのサイトを活用した動画投稿の仕組みを構築するなど、より観光情報を得やすいように工夫をしております。

動画やリーフレット制作では、まず町民の皆さんの芦屋町への関心を高めることが重要と考え、またシビックプライド醸成づくりを進めるため、町民参加型のPR動画を制作しました。動画は、約250人の町民の皆さんに参加いただき、ウェブ上などに公開しております。また参加された皆さんにはDVDを配布、町内事業所などで上映により、効果は高まっていると考えていますし、次の施策の第一歩となったことが成果であると思っております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 7番 田島 憲道君

私も動画見ました。町長、大変カッコよかったです。リンカーンのゲティスバーグ演説みたいなね、出だしたんですよね。あれ、町民の、町民の、一部の町民じゃないかなとか、僕は思っておるんですけど。

東京とか関西とかで、お子さんが大学、お孫さんが行っているとか、働いているよとか。例えば僕なんか、芦屋の砂像展があっていたころ、東京で朝ですね、テレビ、「ズームイン!!朝!」をつけたら砂像展あってるわけですよ。嬉しくて、すぐばあちゃんやら、家に電話したりとかして。あのビデオに出ている御家族さんたちは大変嬉しいと思いますよ。じいちゃんが出ている、ばあちゃんが出ている。ただですね、ただですね、どうしてあれ夏の、芦屋といえば夏ですよ。夏の場面が静止画なのかなとか。なぜ撮影が3月ぐらいまで、3月やったですかね、あれ。まで

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

かかったのか。絶対やっぱり、こうやって予算がついたのだったら、夏のいい時期を撮らないといけないのじゃないかなと思うんですよね。そしてまた町内には、やっぱりいろいろな人がいますよ。NHKのあのカメラマン、映像送っている人たちもいれば、結婚式の映像の会社もあつたりとかします。あれは、僕は結婚式、20万とか30万で撮れるようなビデオのほうが、気がきいているような感じがするんです。あれ、一体いくらかかるとるんですか。これでいえば1,850万で一番お金がかかっているプロジェクトなんですよ。ちょっとお尋ねします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

いろいろありますが、動画制作委託ということで委託を出しております。これが563万9,000円という金額になっております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8番 田島 憲道君

563万円。大変大きな支出というか、受けたところも大変有名なところですよ。ただ、あそこもどこかに、制作会社の下請けに出すだろうと思うんですけど。ちょっと僕は、今、スマホで動画を撮って、簡単にy o u t u b eに出して、100万人とか見るような時代の中です。メイキングを見たら機材だけはすごいですよね。機材に圧倒されて、機材代のリースにお金がかかっているのかなという、ちょっと心苦しいことを言ったりしていますが。

資料の8を見ていただけますか。別府の「湯～園地計画」というプロモーションビデオですね。今は、各自治体が競い合うようにしてPRビデオを出しております。そのチャンネル合わせたら、いろいろなところが流れてくるんですよ。大変面白いですよ。いろいろなものがあります。そこをまねしろとは言いません。ただですね、ちょっと別府のここを紹介したいのは、これは市長の公約でありました。

実はですね、いろいろな意味があるんですよ。実に計算されているんですよ。これがですね、ラクテンチの老朽化が激しくて、運営会社も困っていたんですよ。僕もラクテンチには、ある会合は1年に一遍あるからですね、必ず1年行くんですよ。すごい寂れた状況で、今、浅草はどうか知りませんが、花やしきのような、閑古鳥。本当嘘だろうみたいな遊園地なんですよ。あそこはやっぱり市長も気にされておった。そこでですね、100万人、100万回再生されればですね、いろいろなイベントをしますよとか。その集まったお金で税金を一切使わずに、アトラクションを修繕、買いかえていくというようなことなんですよ。別府のPRとお金を集めるという。

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

そのお金でもですね、クラウドファンディングですよ。それを使ってやるといったことを、このビデオで作りまして、なんと 3 日で 100 万回達成したということです。芦屋町のビデオが、動画は何人見たかとか僕は気にしないんですよ。町民参加型で大変素晴らしいと思っておりますが。こういうふうですね、仕掛けて、お金を集めて、また PR してと。またその集めたお金でそういった施設を直す。税金は一切使ってないんだぞということをちょっとお知らせしたかったです。

④の次に行きますね。日本版シティマネージャー制度、地方創生人材支援制度の活用についての芦屋町の見解をお尋ねいたします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

地方創生人材支援制度は、地方創生に積極的に取り組む市町村に対し、意欲と能力のある国家公務員、大学研究者、民間人を市町村長の補佐役として派遣するものです。条件は、市町村長が地方創生について明確な考えを持ち、派遣人材を地域の変革に活用する意欲を持っていること。これまで地方創生人材支援制度による人材の派遣を受けたことがないことなどで、役割は、副市町村長または地方創生を担当する幹部職員で原則 2 年の派遣期間となっています。

芦屋町においても、地方創生の推進に当たっては、専門家や外部人材は必要なことであり、また、この制度により、さまざまなスキルを持った人材を受け入れた自治体で、一定の成果も得ていることから、制度の活用について調査研究を行っているところでございます。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

ありがとうございます。こちら資料を用意させていただきました。9 を見ていただけますか。地方創生人材支援制度ですね。日本版シティマネージャーの井上さんという方が。写真で添えます、お顔を見てください。優しそうなお顔です。北九州では、こういう感じだとなかなか、この北九州、筑豊で車の運転で困ります。荒々しい交通網の中、このような優しそうな方が舐められたり、何と言っていったらいいですかね、本当見た目の通りですよ。しかし、この方はすごい方ですよ。このシティマネージャー制度、これをですね、発案した方なんですよ。

長島町といえばですね、長島本島ほか大小の島々からなる、この長島町で副町長を務めました。27 歳か 28 歳のときだったんですよ。ここはもう、そのときに副町長を 2 人制度ということで、彼に来てもらいました。2015 年 4 月に出向してきた官僚なんです。この方、大阪出身で、今

30 歳ですかね。地方創生に積極的に取り組む市町村に対し、意欲がある国家公務員、先ほど説明もありましたけど。研究者などの人材を市長村長の補佐役として派遣するというのが、彼が考案した地方創生人材支援制度ですね。彼はですね、一番に申し込んできた長島町に赴任しました。長島町はブリで有名です。養殖のブリですね。「鱈王」というブランドは皆さんお聞きしたことがあると思いますが。27カ国に輸出して20億円とここに書かれているとおりですが。就任わずか4カ月で新制度を発案しました。ブリにちなんで、奨学金プログラムです。「ぶり奨学金」プログラムということで、あの長島町には高校がない。若者は進学のために島を離れていく。そのまま人口が流出してしまうのが最大の課題と。芦屋も同じようなことがあっていすね。大学に進学される方、なかなかこちらに戻って来てくれません。そこで長島町はですね、養殖地日本一を誇って、回遊魚で出世魚であるブリにちなんで考案されたのがこれなんです。高校、大学卒業後、地元に戻って来て、在住している間は返済しないという奨学金です。これはですね、原資はふるさと納税やクラウドファンディングなんですよ。長島に戻って来るだけではなくてですね、逆に長島町で修行をして、それぞれの地元に戻ってリーダーになる人にも活用してほしいという思いを井上さんは言っています。

この春から愛媛県庁へ出向していますが、この彼、ちょっと見た目、けんか弱そうな彼なんですけど、しかし彼は数億引っぱってくるんですよ。総務省からいけば、人質じゃないですけど、ひもつきじゃないですけど。彼がいることによって、数億という助成金がうまい具合に入ってくるわけなんです。遠賀町はどうか知りませんが。しかしですね、彼、この後もどんどん出世していきます。長島町のことはですね、第二のふるさとだと彼は言っています。

僕はですね、芦屋町にも、やっぱり官僚の方とですね、もっと付き合いがふえればいいんじゃないかなとかいうことを思うんですよ。そうすると、昔は本当、僕は東京でかばん持ちをしていたころは、地元、おらが大臣じゃないけど、おらの村の大臣じゃないけど、地元で議員を育てて、20年かかって大臣になってもらって、初めて予算がつくようなことだったんですが、今、ここ最近ですね、地方創生とこの時代はですね、官邸がすごくお金を持っていてですね、官僚の人たちがこういうふうにして、色眼鏡で予算つけていたりするような状況というか、現実あっています。

また、北九州市に行くんですけど、市役所の中に官僚がぞろぞろいます。国土交通省から総務省から。今の財政局長なんか41歳で総務省から来ている人ですよ。彼もやっぱり、「北九州は第二のふるさとだ。どんどん予算つけるからね、僕は。」とか言って、凄いパワフルだなあとの時感じました。

ちょっと余談が長くなりましたが、次に行きます。

通告2ですね、その前に皆さんの中で理系の学校行かれた方、もしくは自分は理系だという方

平成 29 年第 2 回定例会（田島憲道議員一般質問）

いらっしゃいますか。理系。僕は見ての通り体育会系です。ちょっとそのようなことを考えながら、次の質問に移りたいと思います。

通告 2 の産官学の包括連携の取り組みについて。芦屋町は地方創生を推進していく上で、大学の知見やノウハウを生かした地域づくりを推進するため、大学との連携により、元気な芦屋町を目指すことを掲げています。では、現在の取り組みをお尋ねいたします。よろしくお願いいたします。

○議長 小田 武人君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

大学連携につきましては、平成 28 年 3 月に九州女子大学・九州女子短期大学と協定書を締結し、お互いの持つ資源や知識、ノウハウなどを効果的に連携できるよう取り組んでおります。

昨年度の具体的な取り組みといたしましては、土曜学び合いルームへの学生派遣や芦屋東小学校の研究発表会、船頭町での地域交流サロン事業への講師派遣のほか、「さわらサミット」において、大学考案の「さわら巻き」の提供のほか、イベント企画を担当してもらいました。

今年度の連携事業につきましては、現在、協議中の内容もありますが、土曜学び合いルームへの学生派遣や地域交流サロン事業への講師派遣のほか、学生から見た芦屋町の課題抽出、そして課題解決、ディスカッションなどを行っていただく予定です。また、協定書の締結はしていませんが、関西学院大学との連携事業にも取り組んでいく予定です。

関西学院大学とは、昨年度、経済学部産業研究所のゼミの一環として、「さわらサミット」開催期間中に、芦屋町を訪問され、町内視察や「さわらサミット」へのボランティア参加をしていただいたことをきっかけに関係を築きました。この実績を踏まえ、今年度、単位認定されたフィールドワーク授業の実施場所として、芦屋町が選ばれたため、大学連携事業として対応を行う予定です。

このフィールドワーク授業は、学生みずからが実際の現場から課題を設定し、探求することを目的に、今年度から 3 年間継続して実施される予定で、研究テーマとして、1 年目は 1 次産業、2 年目は 2 次産業、3 年目は 3 次産業と研究テーマを変え、ステップアップしていく内容となっております。本授業では、芦屋町の現状分析、課題の抽出、研究などが行われ、研究成果は、関西学院大学梅田キャンパスで発表される予定となっております。

以上です。

○議長 小田 武人君

田島議員。

○議員 8 番 田島 憲道君

「さわらサミット」に行ったときにですね、九州女子大の学生さんがいっぱいいて、若い職員は大変嬉しそうでした。出会いの創出の場でもあるのではないかと、うらやましいなあと思いました。

先日、安倍内閣の成長戦略の素案が発表されて、きょう閣議決定されるようです。ここ、これがですね、おもしろいことに I o T やら何やら、ロボットはどうたらとかそんなことが中心のように思えますが。I o T により、企業の生産性を高め、成長を阻害している人手不足の緩和を目指すということですが、安全を確保しつつ、着実に新産業育成できるかが問題となると思います。目玉としてですね、素案見たらですね、全国 10 カ所以上、公道で無人走行バスの自動運転実験を実施するというようなことが書かれていました。

資料 10 をちょっと見ていただけますか。「A I、自動運転、ロボットの現状と未来」ということで、これは 4 月 10 日にですね、北九州産業学術推進機構、F A I S というところで、ひびきの学術研究都市の中にあるのですが。そこで世界的に有名な教授、ロボットコンピューターとか、そういった分野のすごく権威の人、実は日本人なんですよね。その方がお見えになって、講演を聞いてきました。「A I 研究の今」ということで。このカーネギー。カーネギーのカーネギーさんのカーネギーですよ。このカーネギーメロン大学。ここの研究所はですね、年間の予算が 80 億の予算があると。芦屋と同じくらいですよ。この予算を全部ロボット、あと自動運転、計算機視覚のこの分野に注ぎ込んでおるといいますよ。今、G o o g l e とかの開発者とか、ウーバーとかですね、テスラーとか自動運転とか開発してますね。そこのスタッフたちを 30 人、40 人はここの研究所から出ているということなんです。この金出教授なんです。実は 1986 年から自動運転の研究を始めたんですよ。我々はい最近聞いた言葉、聞いたことだったから、2020 年、東京オリンピックには間に合わせるよというような話とか、本当とかいうような、夢のような話のように聞こえていたんですが。実は 1986 年、30 年前からもう取りかかっている、彼に言わせれば、その二、三年、90 年には完璧に走らせられると思っただけなんです。ただ、今ですね、もう完璧に高速道路を走れると言っていますよ。もう 2 年後には、もうそういう状況が起きていると。既に起こった未来は、本当、目の前に、やがて近づいて来ているという状況らしいですね。

そのあと 2 部に九工大の准教授からお話がありました。あそこには北九大と九工大と早稲田がともに研究所があってですね、キャンパスがありますが、共同で自動走行システムを共同研究しているというんですよ。これはもうですね、あのエリアをもう何度も何度も自動運転で走行しているんだと。ただしですね、最近小学校ができた。それで P T A の目もあるし、何かあったら大変だなあというようなことをぼやいていました。

僕はですね、芦屋町、はまゆう団地の周辺とかそういったところでこの自動走行運転の実証実

験できるんじゃないかなと思うんですよ。これはですね、これが本当に 2 年後、3 年後、4 年後とかに、無人の車が走るようになればですね、いろいろなものが解消できるんじゃないかと思えます。

きのうの一般質問で町長がお答えになっていたこと、ちょっと気になっていたんですが。芦屋はやっぱり車があれば、本当に幸せなところなんです。車がある方にとっては本当に何も問題がないですけど。ただ、車をなくしてしまうとですね、町の中で生活するには、何もありません。町の中で全てそろいますけど。ただ、外に出ようとしたときには、うーんどうなのかなと。これ、本数じゃないんですよ。帰るときに、駅に着いて 30 分、40 分待たなければ、次のバスが来ないとか。そうなったら、もうお父さん迎えに来て、お母さん迎えに来てとかですね。後はタクシー乗るお金があったら、タクシーで帰れるという状況なんですよ。

これがですね、例えば団塊の世代の方たちが、そういう 75 歳になる 2025 年問題と言われていきますけど、そのころにですね、大量に免許証返すようになった場合にですね、またそのときのことを考えなきゃいけないのではないのかなと思っております。もし機会があればですね、僕は自動運転走行にチャレンジ、芦屋町が名乗りを挙げるとかですね、そういったことですね、これにまた改訂版を出してつけ加えていただきたいと思うんですよ。

芦屋町の策定委員の委員長は、よく知っている方で、内田教授。何度か講義、習ったこともあるんですけど。その方に直接、ついこの間、会って直接言いましたね。芦屋町改訂版出さないんですかって。苦笑いしていましたけど。彼はですね、電気自動車、小さい 1 人乗りとか 2 人乗りとか、小さい電気自動車を八幡駅でですね、シェアリング、カーシェアリングですよ。それを乗り捨てるような、レンタカーとか、そういう研究をしている方なので、何で先生は芦屋でこういうことをしてくれないんですかって話して、また苦笑いしてたんですが。そういったことをちょっと皆さんにお伝えしたいなと思っております。

町長、いろいろ言いましたが、何かよろしく願いいたします。

○議長 小田 武人君

町長。

○町長 波多野 茂丸君

全体的に、その設問は 2 つあるんですけど。（発言する者あり）あ、自動運転。（発言する者あり）

頭の中で今、田島議員のお話をずっとこう、イメージしていたら、非常に近未来というか、おそらく、そうですね、30 年、20 年はちょっと無理かな。30 年先には、そういう時代が来るのかなあというような。いろいろな本、テレビでいろいろなドキュメンタリー番組見ますと、そういうような番組が、多く見受けるわけでございますが。ただ現実、じゃあ今どうか。今、そう

ということで、我々行政を預かっている者として、確かに大学の研究、それからそういう方たちは、そういう 50 年先のことを見越して、どんどんやろうとしていますけど。我々に与えられた使命というのは、今何をするかというのが一番大事。今のこのとき、芦屋の町民の方に対して、どういような福祉、教育、振興策をするか。それと合わせて、結局サイクルとすれば 10 年、20 年先を見越して、せめてそれくらいのことではないかなと思うんですよね。だから次の世代にうまくバトンタッチができるように、結局基盤づくりだけは、今、我々が、議員の皆さんもそうですし、我々執行部もそうですし。そういうことではないかと思っております。

今の、この交通問題とは別に、最初からもずっとお話しさせて、聞かせていただいておりますが、いつものことながら感心するわけですが、すばらしい。結局、発想、それからよく勉強されておられる。それだけ、結局、議会でこう。もったいないような気がするんですね。だから、そういう、今、委員会。今、地方創生、企画課長はいろいろ説明しました。ぜひ入っていただいて方向性。今、やっぱりリーダーというのが、そういうようなまちづくりをするためのリーダーというのがやはり不足しているんですね。そういうように提案をしてもらう。これは、こうしたほうがいい、こうやないか。今プロモーションビデオもそんなに金かけないよ。これでできるやないかとかいうようなですね、そういう場面です、ぜひ御発言いただければ、またおそらく、よりよいまちづくりになるのではないかと思います。

ただ 1 点、人間それぞれが顔があるように、町にもそれぞれ顔があります。遠賀は遠賀、岡垣はまあ、4 町にしてもですね。それぞれの顔の中で特色を生かす、その町の特色を生かすということで、芦屋はこの地方創生、大きな、何度も言ってます海というのを核にして。これはですね、やはり私は、お話ししている、基盤づくりですね。これは 20 年、30 年先、50 年前でも 100 年前でも芦屋は海なんですね。だからそれをじゃあその先、この芦屋に住まわれる方がどういうふうにして、また進化させるかという、我々はそこも考えなくてはいけない。ただ思いつきでやっているのではなく、やはり、そこは先のことと考えて。今、いろいろ課長は、いろいろな話しをしましたが、最後に来るところは港。この港を核にして、どういうまちづくりをする。それはまた、皆様方、大いに考えていかななくてはならない。せっかくの与えられた財産でございます。それを生かしたまちづくりということで、また、いろいろな貴重な御意見をですね、今度は海を中心として勉強をしてください。よろしく申し上げます。

○議長 小田 武人君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。